

## II 調査結果の要約

---



## II 調査結果の要約

### 1. 区民の定住性

#### (1) 居住年数

「5年未満」(31.7%)が3割強で最も高く、これに「5年以上10年未満」(20.0%)を合わせた『短期居住者』(51.7%)は5割強となっている。また、「30年以上」(8.6%)と「生まれてからずっと」(9.1%)を合わせた『長期居住者』(17.7%)は1割台半ばを超えている。

#### (2) 定住意向

「当分はここに住むつもり」(54.6%)が5割台半ば近くで最も高く、これに「永住するつもり」(26.3%)を合わせた『定住意向』(80.9%)は約8割となっている。一方、「近いうちに区外に転出するつもり」(4.4%)と「1年以内に区外に転出するつもり」(2.3%)を合わせた『転出意向』(6.7%)は1割未満となっている。

#### (2-1) 定住意向の理由

「交通網が充実していて便利だから」(85.4%)が8割台半ばで最も高く、次いで「勤務先に近いから」(45.8%)、「千代田区が好きだから」(41.9%)、「医療や福祉などの質が高いから」(37.7%)、「文化的な施設やコンサート会場に近いから」(32.1%)と続いている。

#### (2-2) 転出意向の理由

「転勤などの仕事の都合」(36.2%)が3割台半ばを超え最も高く、次いで「もっと家賃や物価の安いところに住みたい」(29.3%)、「もっと広い住宅に住みたい」(25.9%)、「もっと居住環境の良いところに住みたい」(22.4%)、「もっと日常生活の便利なところに住みたい」(17.2%)と続いている。

### 2. 居住環境評価

#### (1) 周辺的生活環境評価

『良い』が最も高い項目は“交通の便”(97.1%)で9割台半ばを超えと高くなっている。『悪い』が最も高い項目は“騒音・振動”(36.6%)で3割台半ばを超えている。

#### (2) 周辺の居住環境の満足度

「満足している」(54.7%)が5割台半ば近くと最も高く、これに「大変満足している」(22.8%)を合わせた『満足』(77.5%)は7割台半ばを超えとなっている。一方、「不満である」(4.6%)と「大変不満である」(0.7%)を合わせた『不満』(5.3%)は1割未満となっている。

#### (2-1) 「周辺的生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析

景観・まちなみ(0.49)・“建物の周囲の空間・日当たり”(0.46)・“安全・安心なまち”(0.45)・“騒音・振動”(0.43)、“緑の豊かさ”(0.43)・“交通の安全性”(0.40)、“災害時の安全性”(0.40)、の7項目は相関係数(r)が0.4を超えており、居住環境の満足度と中程度の相関がみられた。周辺的生活環境の中でも、特にこれらの評価が向上することが、居住環境満足度向上に影響すると考えられる。

### 3. 区の施策への要望

#### (1) 力を入れてほしい施策

「防災対策」(37.7%)が3割台半ばを超え最も高く、次いで「環境対策」(30.0%)、「高齢者施策」(28.7%)、「まちづくりの推進」(25.9%)と続いている。

## 4. 施策の満足度・重要度

### (1) 施策の満足度・重要度

「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は“保健・衛生対策”（56.2%）が5割台半ばを超えと最も高くなっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“住宅対策”（32.5%）が3割強と高くなっている。

「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』は“防災対策”（90.3%）が約9割と最も高くなっている。一方、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“生涯学習、文化・スポーツの振興”（18.2%）が2割近くと高くなっている。

## 5. 区の施設への要望

### (1) 整備・充実すべき施設

「公園・児童遊園・広場」（37.2%）が最も高く、次いで、「スポーツ施設」（34.5%）、「図書館」（24.7%）、「高齢者福祉施設」（24.0%）の順となっている。

## 6. 広報活動

### (1) 区政情報の取得媒体

「広報千代田」（73.8%）が7割台半ば近くで最も高く、次いで「区のホームページ」（42.4%）の順となっている。

### (2) 新聞購読の有無

「自宅で新聞を購読していない」が66.5%で最も高くなっている。一方、「自宅で新聞を購読している」（28.4%）は3割近くとなっている。

### (3) 広報千代田の閲読の有無

「読んでいる」（76.3%）が7割台半ばを超え、「読んでいない」（20.8%）は約2割となっている。

#### (3-1) 広報千代田の閲読状況

「多くのページに目を通す」（42.4%）と「必要・関心のあるところだけ読む」（46.9%）を合わせた『内容を見ている』（89.3%）が9割弱となっている。一方、「写真や見出しを見る程度」（10.7%）は約1割となっている。

#### (3-2) 広報千代田を読まない理由

「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」（33.7%）が3割台半ば近くで最も高く、次いで「掲載記事に興味のあるものが少ないから」（32.0%）、「区政に興味がないから」（24.7%）と続いている。

## 7. 区政情報の把握

### (1) 東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無

「ない」（71.4%）が7割強と高くなっている。一方、「ある」（26.8%）は2割台半ばを超えとなっている。

### (2) 区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験

「一度も見たことがない」（79.7%）が8割弱で最も高くなっている。一方、「頻繁にみている」（1.1%）、「この調査の1週間前から記入迄の間に見たことがある」（0.7%）、「この調査の1か月前から記入迄の間に見たことがある」（0.7%）となり、日常的に見ている方はわずか2.5%にとどまっている。

### (3) YouTube の視聴環境の有無

「見ることができる」(93.1%) が9割台半ば近くと最も高く、「見ることができない」(3.0%) は1割未満となっている。

### (4) 区公式 YouTube チャンネルの視聴経験

「一度も見たことがない」(87.5%) が8割台半ばを超えと最も高くなっている。一方、「頻繁にみている」(1.4%)、「この調査の1週間前から記入迄の間に見たことがある」(0.5%)、「この調査の1か月前から記入迄の間に見たことがある」(1.4%) となり、日常的に見ている方はわずか3.3%にとどまっている。

### (5) 区制 75 周年の認知度

「知らない」(79.9%) が8割弱と最も高くなっている。一方、「知っている」(19.3%) は2割弱となっている。

### (6) 各大学が区民のための公開講座を開催したり、学生が地域ボランティアなどの活動を行っていることの認知度

「知らない」(58.6%) が6割近くと最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」(20.7%)、「知っている」(19.9%) となっている。

## 8. 町会・ボランティア

### (1) 地域の活動(町会やボランティア活動など)への参加状況

「参加したことが無く、あまり関心も無い」(40.1%) が約4割で最も高く、これに「参加したことは無いが、関心はある」(37.0%) を合わせた『参加したことは無い』(77.1%) は7割台半ばを超えとなっている。一方、「よく参加している」(5.0%) と「何回か参加したことがある」(15.7%) を合わせた『参加したことがある』(20.7%) は約2割となっている。

### (2) 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野

「地域コミュニティの形成」(36.9%) が3割台半ばを超えと最も高く、次いで、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」(34.6%)、「地域住民と町会との交流促進」(25.5%)、「NPO・ボランティア等との連携・協働の推進」(21.4%) と続いている。

## 9. かかりつけ医

### (1) かかりつけ医の有無

「はい」(いる) (54.4%) が5割台半ば近く、一方「いいえ」(いない) (43.6%) は4割台半ば近くとなっている。

#### (1-1) かかりつけ医の医療機関

「診療所」(68.7%) が7割近く、「病院」(30.5%) が約3割となっている。

### (2) かかりつけ歯科医の有無

「はい」(いる) (71.5%) が7割強、一方「いいえ」(いない) (27.5%) は2割台半ばを超えとなっている。

## 10. 第二次健康千代田 21 の成果指標

### (1) 地域の人との関わり

「あいさつをする人がいる」(36.6%) が3割台半ばを超え、次いで「つきあいはない」(32.7%)、「立ち話をする人がいる」(18.7%)、「相談しあえる人がいる」(11.6%) となっている。

## (2) 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の認知度

「知らなかった」（60.9%）が約6割で最も高く、次いで「知っていた」（23.1%）、「内容まで知らなかったが、言葉は聞いたことがある」（15.9%）となっている。

## 11. 自殺対策

### (1) 千代田区自殺対策計画の認知度

「知らなかったが関心がある」（70.6%）が約7割で最も高く、これに「知らなかったし関心がない」（24.9%）を合わせた『知らなかった』（95.5%）は9割半ばとなっている。一方、「知っていて意識が高まった」（1.4%）と「知っているが関心がない」（2.9%）を合わせた『知っていた』（4.3%）は1割未満となっている。

### (2) ストレス等の有無

「やや感じた」（38.6%）が4割近くで最も高く、これに「とても感じた」（20.4%）を合わせた『感じた』（59.0%）は6割弱となっている。一方、「まったく感じていない」（10.2%）と「あまり感じていない」（30.6%）を合わせた『感じていない』（40.8%）は約4割となっている。

### (3) 悩みを相談できる人の有無

「いる」（83.9%）が8割台半ば近く、「いない」（14.7%）が1割台半ば近くとなっている。

#### (3-1) 悩みを相談する相手

「家族や親族」（85.8%）が8割台半ばで最も高く、次いで「友人や同僚」（70.2%）が約7割で続いている。

#### (3-2) 相談内容

「勤務関係の問題」（46.8%）が4割台半ばを超え最も高く、次いで「病気・健康の問題」（42.3%）が4割強と続いている。

### (4) 睡眠時間

「ほぼ足りている」（41.4%）が4割強で最も高く、これに「十分足りている」（20.3%）を合わせた『足りている』（61.7%）は6割強となっている。一方、「まったく足りていない」（5.7%）と「やや不足している」（31.7%）を合わせた『足りていない』（37.4%）は3割台半ばを超えとなっている。

### (5) 熟睡できないことの有無

「ときどきある」（42.1%）が4割強で最も高く、これに「よくある」（19.2%）を合わせた『ある』（61.3%）は6割強となっている。一方、「まったくない」（12.3%）と「めったにない」（25.6%）を合わせた『ない』（37.9%）は3割台半ばを超えとなっている。

#### (5-1) 眠れない日が続いた時の対応

「何もしない」（34.7%）が3割台半ば近くで最も高く、次いで「入浴や運動をする」（31.1%）、「スマートフォン等の電子機器を使う」（21.0%）となっている。

### (6) 自分の居場所がないと感じることの有無

「あまり感じない」（42.4%）が4割強で最も高く、これに「まったく感じない」（37.7%）を合わせた『感じない』（80.1%）は約8割となっている。一方、「たまに感じる」（15.8%）と「いつも感じる」（2.7%）を合わせた『感じる』（18.5%）は2割近くとなっている。

### (7) 悩みを相談する手段

「対面相談（訪問相談を含む）」（58.8%）が6割近くで最も高く、次いで、「インターネットを利用して解決法を検索」（56.5%）、「電話相談」（51.6%）となっている。

## (8) 「死にたい」と打ち明けられた時の対応

「ひたすら相手の話を聞く」(74.9%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで「解決策と一緒に考える」(47.7%)、「精神科など専門機関への相談を勧める」(46.0%)となっている。一方、「何かしたいが何をしてもよいかわからない」(11.3%)は1割強となっている。

## (9) 自殺を考えたことの有無

「考えたことがない」(65.1%)が6割台半ばと最も高く、「考えたことがある」(23.0%)が2割台半ば近く、「答えたくない」(10.3%)が約1割となっている。

## 12. 感染症対策

### (1) 手を洗うタイミング

「帰宅したとき」(95.2%)が9割台半ばと最も高く、次いで「トイレの後」(93.0%)、「ゴミを扱った後」(86.8%)、「料理する前」(84.0%)、「生の魚や肉を扱った後」(82.4%)と続いている。

### (2) マスク着用の頻度

「いつも行っている」(79.3%)が8割弱で最も高く、これに「時々行っている」(17.1%)を合わせた『行っている』(96.4%)は9割台半ばを超えている。一方、「あまり行っていない」(2.6%)と「まったく行っていない」(0.5%)を合わせた『行っていない』(3.1%)は1割未満となっている。

### (3) 換気の頻度

「いつも行っている」(54.9%)が5割台半ば近くで最も高く、これに「時々行っている」(35.5%)を合わせた『行っている』(90.4%)は約9割となっている。一方、「あまり行っていない」(7.7%)と「まったく行っていない」(1.3%)を合わせた『行っていない』(9.0%)は1割弱となっている。

### (4) 外出を控える場面

「外食(会食)」(84.7%)が8割台半ば近くで最も高く、次いで「出勤」(70.9%)、「習い事・サークル活動・イベント」(60.0%)となっている。

## 13. 地域コミュニティ

### (1) 区内でのコミュニティ活動への参加状況

「参加していない」(65.0%)が6割台半ばと最も高くなっている。参加した活動の中では「祭り、地域のイベントに参加」(18.2%)が2割近くと最も高く、次いで「町会活動」(11.7%)、「マンションでの活動(管理組合等)」(10.4%)となっている。

#### (1-1) コミュニティ活動に期待すること

「自分も家族も楽しむことができる」(36.4%)が3割台半ばを超え最も高く、次いで「身近な地域の知人・仲間との活動のなかで考え方の共有ができる」(33.0%)、「参加することで学びや新しい発見があり、自分自身が成長できる」(31.0%)となっている。

### (2) 町会加入状況

「町会に加入している」(36.2%)が3割台半ばを超え最も高く、次いで「町会に加入していない」(35.6%)、「町会に加入しているかわからない」(26.3%)となっている。

## (2-1) 町会活動への参加状況

「町会の行事やお祭りに参加したことがあるが、日常の活動には参加していない」(34.5%)が3割台半ば近くで最も高く、次いで「町会の情報は見るが活動には参加していない」(32.3%)となっている。

## (3) 町会が地域で担う役割

「地域の防災、防犯の役割を担う」(60.2%)が約6割と最も高く、次いで「地域の人が交流する場を作る」(55.8%)、「地域の助け合いの基盤となる」(51.2%)、「祭や行事への参加の機会をつくる」(50.6%)となっている。

## (4) 町会の活動に期待すること

「人間関係の負担が重くない活動であってほしい」(53.2%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで「地域内の交流の活性化」(41.9%)、「地域の伝統を守り続けてほしい」(30.8%)となっている。

## (5) 近所の方との交流

「挨拶を交わす程度の交流をしている」(42.4%)が4割強で最も高く、これに「日常的に多くの人と交流している」(2.3%)、「日常的に交流している人がいる」(8.9%)、「お祭りなどのイベントや、町会・マンション管理組合の総会などで交流している」(2.7%)を合わせた『交流している』(56.3%)は5割台半ばを超えている。一方、「ほとんど交流していない」(17.2%)と「まったく交流していない」(24.6%)を合わせた『交流していない』(41.8%)は4割強となっている。

## (5-1) 近所の方との交流への考え

「困った時に声をかけたり、災害などの非常時には助け合える関係がほしい」(83.4%)が8割台半ば近くで最も高く、次いで「日常的に交流する人を増やしたい」(17.2%)、「イベントなどで交流をしたい」(12.4%)と続いている。

## (6) 今後のコミュニティ活動への参加意向

「少し参加したい」(45.1%)が4割台半ばで最も高く、これに「参加したい」(11.4%)、「積極的に参加したい」(3.4%)を合わせた『参加したい』(59.9%)は6割弱となっている。一方、「参加したくない」(20.3%)は約2割となっている。

## (6-1) コミュニティ活動に参加したいと思うきっかけ

記入された主な意見は、人間関係(30件)、時間がない(20件)、活動内容(18件)、その他(65件)などがあつた。

## (7) コミュニティ活動参加を決めるための判断基準

「活動場所や時間帯」(63.4%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「内容への関心の強さ」(49.2%)、「初心者でも参加しやすいか」(41.8%)が続いている。

# 14. 男女平等、人権

## (1) 性別による不平等を感じることもあるか

「あまり感じない」(36.1%)が3割台半ばを超え最も高く、これに「感じない」(20.4%)を合わせた『感じない』(56.5%)は5割台半ばを超えている。一方、「感じる」(12.5%)と「ときどき感じる」(30.8%)を合わせた『感じる』(43.3%)は4割台半ば近くとなっている。



(2) 人権が尊重されている社会だと思うか

「どちらかというと思う」(52.9%)が5割強と最も高く、これに「思う」(28.0%)を合わせた『思う』(80.9%)は約8割となっている。一方、「あまり思わない」(15.0%)と「思わない」(3.4%)を合わせた『思わない』(18.4%)は2割近くとなっている。

(3) 最も関心のある人権問題

「子ども」(16.2%)が1割台半ばを超えと最も高く、次いで「女性」(16.0%)、「インターネットによる人権侵害」(14.5%)と続いている。

(4) LGBTsについて正しく理解したいと思うか

「思う」(40.0%)が4割と最も高く、これに「どちらかというと思う」(37.5%)を合わせた『思う』(77.5%)は7割台半ばを超えとなっている。一方、「あまり思わない」(15.7%)と「思わない」(6.2%)を合わせた『思わない』(21.9%)は2割強となっている。

(5) 同性のパートナーの権利について

「思う」(44.2%)が4割台半ば近くと最も高く、これに「どちらかというと思う」(34.3%)を合わせた『思う』(78.5%)は8割近くとなっている。一方、「あまり思わない」(14.0%)と「思わない」(6.7%)を合わせた『思わない』(20.7%)は約2割となっている。

## 15. スポーツ実施率

(1) 運動・スポーツを行う頻度

「30分以上の運動を週2回以上」(34.0%)が3割台半ば近くと最も高く、これに「週2回以上(時間は問わない)」(11.9%)と「週1回程度(時間は問わない)」(17.9%)を合わせた『週1回以上』(63.8%)は6割台半ば近くとなっている。

## 16. 生物多様性

(1) 生物多様性という言葉の認知度

「知っていた」(44.3%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで「知らなかった」(34.6%)が3割台半ば近く、「意味は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」(20.9%)が約2割となっている。

(2) 生物多様性への関心の有無

「大切なことで、関心がある」(53.6%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「大切とは思いますが、関心はない」(31.1%)が3割強、「考えたこともなかった」(12.1%)が1割強と続いている。

(3) 生物多様性の保全活動等への参加経験

「参加したことがある」(1.2%)、「活動は知っているが参加したことはない」(20.7%)、「活動は知らなかったが参加してみたい」(39.4%)を合わせた『肯定的な意見』(61.3%)が6割強となっている。一方、「活動を知らないし参加したくもない」(37.3%)は3割台半ばを超えとなっている。

(4) 区内の生物多様性に関する情報の入手先

「区の広報紙」(56.4%)が5割台半ばを超えと最も高く、次いで「区のホームページ」(17.8%)が1割台半ばを超え、「公共施設での展示・配布物」(11.8%)が1割強と続いている。

## 17. 気候変動適応

### (1) 「適応策」の認知度

「知らなかった」(46.3%)が4割台半ば超えと最も高く、次いで「知っていた」(20.2%)が約2割、「言葉は知らなかったが、取り組みは知っていた」(17.9%)が1割台半ば超え、「言葉は知っていたが、取り組みは知らなかった」(15.5%)が1割台半ばとなっている。

### (2) 気候変動の影響について関心のあること

「集中豪雨や台風による災害(水害・土砂災害等)の増加」(90.1%)が約9割と最も高く、次いで「熱中症の増加」(54.0%)が5割台半ば近く、「蚊やダニ等が媒介する感染症の増加」(42.4%)が4割強となっている。

### (3) 気候変動への「適応策」で取り組んでいること

「熱中症対策・暑熱対策」(59.0%)が6割弱と最も高く、次いで「水害や土砂災害への備え(ハザードマップの確認、災害備蓄、訓練への参加など)」(42.8%)、「節水」(34.2%)と続いている。一方、「特に取り組んでいない」(21.0%)は2割強となっている。

## 18. 2050 ゼロカーボンちよだに向けた取り組み

### (1) 「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度

「知らなかった」(79.3%)が8割弱で最も高く、次いで「内容までは知らなかったが、言葉は聞いたことがある」(13.7%)、「知っていた」(6.8%)となっている。

### (2) 脱炭素社会への関心の有無

「大切なことで、関心がある」(57.4%)が5割台半ば超えと最も高く、次いで「大切とは思いますが、関心はない」(22.4%)が2割強、「考えたこともなかった」(11.8%)が1割強と続いている。

### (3) 環境保全イベントや活動への参加経験

「参加したことがある」(0.8%)、「活動は知っているが参加したことはない」(21.7%)、「活動は知らなかったが参加してみたい」(29.9%)を合わせた『肯定的な意見』(52.4%)が5割強となっている。一方、「活動を知らないし参加したくもない」(46.4%)は4割台半ば超えとなっている。

### (4) 再生可能エネルギー電力に切り替えるきっかけ

「料金が現在より下がる」(72.7%)が7割強と最も高く、次いで「手続きが簡便」(68.1%)が7割近く、「料金内容が提示される」(38.4%)が4割近くと続いている。

### (5) 電気自動車等買い換えるきっかけ

「車を持っていない」(55.8%)が5割台半ばと最も高く、次いで「身近に充電設備が設置される」(34.6%)が3割台半ば近く、「補助金などが支給される」(28.5%)が3割近くと続いている。

### (6) 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体

「区の広報紙」(64.1%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで「区のホームページ」(20.0%)が2割と続いている。

## 19. ウォーカブルなまちづくり

### (1) 千代田区のウォーカブルなまちづくりの認知度

「知らなかった」(83.8%)が8割台半ば近くで最も高く、次いで「言葉は知っていたが取り組みは知らなかった」(7.2%)、「国が推進していることは知っていたが、千代田区の取り組みは知らなかった」(5.1%)、「知っていた」(3.4%)となっている。

### (2) 公共空間の活用

「どちらともいえない」(33.3%)が3割台半ばと最も高く、次いで「公共空間等を活用できることを知らなかった」(23.2%)、「できていると思う」(23.0%)、「できているとは思わない」(19.9%)と続いている。

### (3) 公共空間等を活用したイベントの主催意向

「したいとは思わない」(63.0%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで「どちらともいえない」(28.7%)、「したいと思う」(7.0%)となっている。

#### (3-1) 主催してみたい活動

記入された主な意見は、運動系(10件)、文科系イベント(8件)、祭りなど(7件)、フリーマーケットなど(7件)、子どもと参加できるもの(5件)、その他(13件)などがあつた。

#### (3-2) 使用できるとよいと思う場所

「公園」(75.0%)が7割台半ばで最も高く、次いで「道路空間」(48.3%)、「公開空地」(45.0%)と続いている。

#### (3-3) 主催したくない理由

記入された主な意見は、主催はやりたくない(できない)(61件)、時間に余裕がない(54件)、主催したいイベントがない(50件)、主催するのは大変(面倒)(23件)、興味・関心がない(23件)、健康面、年齢面で無理(15件)、その他(77件)などがあつた。

### (4) 公共空間等を活用した地域活動やイベントへの参加意向

「どちらともいえない」(45.1%)が4割台半ばと最も高く、次いで「したいと思う」(28.2%)、「したいとは思わない」(23.4%)となっている。

#### (4-1) 参加してみたい活動

記入された主な意見は、祭り・イベント(63件)、子どもと参加できるもの(26件)、運動系(23件)、フリーマーケットなど(13件)、その他(47件)などがあつた。

#### (4-2) 参加したくない理由

記入された主な意見は、時間がない(24件)、興味・関心がない(19件)、人付き合いの面(13件)、健康・年齢面(7件)、その他(43件)などがあつた。

### (5) ウォーカブルなまちづくりを通じて豊かになってほしいこと

「安全・安心の向上」(53.7%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「経済活性化・賑わい創出」(47.8%)、「健康の推進」(41.4%)、「子育て環境の充実」(39.0%)が続いている。

